

フェデックス
貨物用航空機を相次ぎ購入

フェデックスは、欧州のプロペラ機メーカーATRと「ATR 72-600 0F」30機を購入する契約を締結した。オプションでさらに20機の購入が可能。ATRは2020年から年間6機程度のペースで納入し、フェデックスが機体を更新する。ATR 72-600 0Fは迅速な荷物搭載が可能。

同社は現在45カ国で基幹空港と地方空港を結ぶフィーダー航空機を300以上配備している。機体を順次刷新し、輸送基盤を強固なものにする。



新たに導入する「ATR 72-600F」(左)と「セスナ・スカイリーエ408」(フェデックス提供)

同社は併せて、米航空機メーカーのテキストロン・アビエーションから新たに「セスナ・スカイリーエ408」50機を購入することも決めた。さらにオプションで50機を購入することが可能。1号機の引き渡しは2020年半ばの予定で、その後は毎月1機のペースで受け取る。いずれも貨物機として利用する。セスナ・スカイリーエ408は最大積載量6千ポンド(約2.7トン)。

(11月8、28日)

アリババ
マレーシアで「電子ハブ」開設

中国の電子商取引(EC)大手アリババグループは、マレーシアのクアラルンプールでeコマースの取引・物流支援ネットワーク「eWTP」を立ち上げた。同国政府と組み、中小企業向けに通関や税申告、許認可手続きなどを一括してサポートし、輸出しやすい環境を整備。ECの活性化につながる構想だ。人材育成なども後押しする計画。併せて、アリババの物流子会社とマレーシアの空港公社が連携し、クアラルンプール国際空港の近郊に物流施設を建設する予定。

(11月3日)

パナルピナ
チェコで倉庫3カ所を集約へ

パナルピナは、チェコにある倉庫3カ所を、ヴァーツラフ・ハヴェル・ブラハ国際空港近隣に位置する約7千

平方メートルの物流拠点に集約する計画を発表した。より利便性の高い場所に倉庫機能を一本化することで輸送業務を効率的に進めるのが狙い。パナルピナが同空港で扱う航空貨物はコンテナ1月に2000トンを超えており、IATA(国際航空運送協会)によると、チェコの航空フォワーダーのトップ3に入っている。

(11月6日)

UPS
ブロックチェーン活用を検討

UPSは、最先端技術のブロックチェーン(BC)をトラックや船舶による輸送に活用することを目指す。米国の団体「BITA」に参加したBCは特定のネットワークに参加している複数のコンピュータ間でデータを共有する技術。

同社は通関業務にBCを取り入れ、関係者が情報を迅速に把握し合えるようにすることを検討しており、BITAと連携して技術の標準化などを推進したい考え。

BITAは300社以上が参加を申し込んでおり、UPSが2015年に子会社化した米トラック輸送仲介大手コヨーテロジスティクスは既にメンバーとなっている。(11月7日)

DBシエンカー
スペインに物流センター新設

DBシエンカーは、スペインのマドリッドに新たな物流センターを開設

シバロジスティクス
英中部に医薬品専用倉庫

シバロジスティクスは、英国中部レディッチの既存倉庫を医薬品専用倉庫に改修、利用を開始した。延べ床面積1万2263平方メートルで、世界的な食品メーカー、ダノングループで治療用食品などを手掛けるニュートリシアと5年間の倉庫運用契約、3年間の輸送契約をそれぞれ結んだ。新倉庫を拠点に、医薬品卸会社や在宅治療患者に食品を届ける。併せて、英国の民間医療機関最大手BMIヘルスケアが新倉庫に物流拠点を移す予定。

新倉庫は同国の医薬品・医療製品規制庁から医療関連の安全なサブライチエーションを構成する施設として認可を受けている。(11月16日)

ダムコ
中欧間にコンテナ列車運行

マースクライン傘下の物流会社ダムコは、2017年10月に中国・欧州間でブロックトレイン(コンテナ専用列車)の運行を開始した。フランスのスポーツ用品販売大手デカスロ向け商品を輸送。マースクのコンテナを利用した。一番列車は10月28日に中国の武漢を出発し、同11月16日に目的地のフランス・ドゥルジュへ到着した。移動距離は1万815キロメートルで、同ルートでの輸送リードタイムを20日間短縮できたという。

(11月20日)

した。規模は6万平方メートル。2200万ユーロ(29億5千万円)を投資した。敷地内に倉庫2棟を整備し、第1倉庫はクロスドッキングエリアを確保。第2倉庫は航空・海上貨物を手掛ける。

(11月7日)

マースクグループ
小売り大手株を追加売却

マースクグループは、デンマークの小売り大手ダンスク・スーパーマーケット・グループの株式19%をソリテック・グループに売却する方針を決めた。売却益は55億3千万デンマーククローネ(995億4千万円)で、2017年末までに手続きを完了する。

ダンスクは1964年設立。マースクは中核の運輸・ロジスティクス事業への経営資源集中の一環として、14年にダンスク株式の約5割を売却していた。残る保有分は19年までに売却する計画だったが、同社の業績が好調なことなどから、前倒しした。

(11月7日)

CMAI CGM
LNG燃料を導入

CMAI CGMは、発注済みの2万2千TEU(20フィート標準コンテナ換算)型コンテナ船9隻に初めてLNG(液化天然ガス)燃料対応のエンジンを搭載することを決めた。既存の重油よりCO₂排出量を最大25%、NO_x(窒素酸化物)は85%

UPS
独で電気自転車配送

UPSは、「持続可能な都市配送システム」の確立を目指し、ドイツのフランクフルトで電気自転車による配送を開始した。2年間試験的に実施する。併せて、ハイブリッドの低排出ガス車も導入した。

同社は2009年以降、代替燃料や先進技術を持つ車両、供給設備に7億5千万ドル(840億円)以上を投じ、天然ガスを利用した配送車両などを展開している。(11月22日)

ボロロジスティクス
仏電機大手と連携強化

ボロロジスティクスは、フランスの電機大手タレスと物流面での連携を強化している。同国のトゥールーズとボルドー、プレストの計6カ所にある同社物流拠点を運営。商品保管や受注管理などを担う。(11月23日)

DHLサブライチェーン
テスラのEVトレイラー発注

DHLサブライチェーンは、米テスラが発注した電気自動車(EV)トレイラーを10台発注した。2019年から米国の主要都市でルート配送業務などに投入する計画。

ドイツポストグループは50年までに物流から派生するCO₂の排出量をゼロにする方針を掲げており、EVトレイラーの導入もその一環。(11月29日)